

Ⅱ 関西支所における研究課題の取り組み

関西支所における研究課題の取り組み

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所は、森林・林業・木材産業に係わる中核的な研究機関として、科学的知識の集積を図りながら、行政や社会のニーズに応えるために分野横断的・総合的研究を推進しています。そのため令和3年度から7年度まで第5期中長期計画を策定し、3つの重点課題を設定し、その中に9つの戦略課題を設けて研究を推進しています。関西支所では、以下の2つの重点課題（1～2）の中の7つの戦略課題（1ア～2エ）に勢力を投入し、環境変動下での森林の多面的機能の発揮に資する成果および森林資源の活用による循環型社会の実現と山村振興に資する成果を得るために、林業現場や自然フィールドに密着した研究を中心に65課題を実施しています（P9～12の課題一覧表参照）。

- 1 環境変動下での森林の多面的機能の発揮に向けた研究開発
 - 1ア 気候変動影響の緩和及び適応に向けた研究開発
 - 1イ 森林生物の多様性と機能解明に基づく持続可能性に資する研究開発
 - 1ウ 森林保全と防災・減災に向けた研究開発
- 2 森林資源の活用による循環型社会の実現と山村振興に資する研究開発
 - 2ア 林産物の安定供給と多様な森林空間利用の促進に資する研究開発
 - 2イ 生物特性を活用した防除技術ときのこ等微生物利用技術の開発
 - 2ウ 木材利用技術の高度化と需要拡大に向けた研究開発
 - 2エ 木質新素材と木質バイオマスエネルギーの社会実装拡大に向けた研究開発

研究課題の予算規模、投入勢力は課題によって様々です。関西支所では17課題で主査（課題責任者）を務めています。それ以外の課題は、森林総合研究所（つくば）や、大学など他機関の研究員が主査を務め、関西支所では課題の一部を分担しています。65課題の予算区分別の内訳は、交付金一般研究費が13課題、森林総合研究所の所内の交付金プロジェクトが8課題、基盤課題が4課題で、残り40課題が外部資金です。基盤課題では中長期目標期間を超えて取り組む必要のある長期モニタリングを行っています。外部資金の中では科学研究費助成事業が26課題と多く、そのほか農林水産省、環境省の研究費や事業費および助成金を獲得し研究を遂行しています。

このうち、関西支所で重要なテーマとして研究を推進している課題として、

- 2イ aPF46 相次いで侵入した外来カミキリムシから日本の果樹と樹木を守る総合対策手法の確立（P40 参照）
- 2エ aPF24 木の酒の社会実装に向けた製造プロセスの開発と山村地域での事業条件の検討（P42 参照）

などが挙げられます。前者は特定外来種に指定された3種のカミキリムシについて、被害リスクの推定と新たな防除法の開発、およびこれまでに開発された防除法の社会実装を目的とする課題です。一方、後者は木の酒（木材を醸造した酒）生産の事業化のために、林業として原料を持続的に供給する条件を検討する課題です。関西支所は地域における「橋渡し機能」を果たし、これらの研究課題の成果を地域の林業事業体や市民団体などへ普及することにも努めます。

